

娘の遺志継ぎもてなす

筒井さん寄贈 名大で茶室開き

医療機器メーカー「東海メディカルプロダクツ」(春日井市)会長の筒井宣政さん(七〇)が名古屋大アジア法交流館に寄贈した茶室が完成し、七日に名古屋市千種区の現地で茶室開きがあり、関係者ら二十人が完成を祝った。茶室の名前は「白蓮庵」。二十三日で亡くなった筒井さんの次女佳美さんの戒名から名付けられた。佳美さんは先天的な

「手術は不可能」と宣告された。筒井さんは人工心臓の開発を決意して一九八一年に東海メディカルプロダクツを設立。心筋梗塞の応急措置に使われる「パルーンカテテル」の国産品を初めて開発した。茶道をたしなんだ佳美さんにならない、筒井さんも茶道を始めた。

茶室は、昨年十一月に完成した五階建てのアジア法交流館一階に設けられた。文部科学省の補助金では茶室整備費が付かず、客員教授の筒井さんに名大が協力を打診。快諾した筒井さんが約二千五百万円を寄付した。

茶室は七十六平方メートル。十五畳の広間と四畳半の小間、茶器を洗う水屋があり、学生や研究者らが交流する場として活用される。

茶室開きでは、筒井さんが「心臓の悪かった佳美は運動ができず、茶道を勧められて

打ち込んだ。茶室整備の趣旨に賛同して寄贈した。大変名誉なことを」とあいさつ。妻の陽子さん(全)らとともに

陽子さん(全)らとともに

藤嶋崇



筒井宣政会長と妻陽子さん(手前左側)ら関係者が集まった「白蓮庵」の茶室開き＝名古屋市千種区の名大で